

心象風景

KU-MA 会長を退いて若いお二人にバトンを渡しましたが、引き続き理事として、また毎月の運営委員会に顔を出しています。

約10年前に宇宙科学研究所を定年で退きましたが、その前後は残りの人生をどう生きようかとずいぶんと考えました。KU-MA の活動はそのうちのひとつです。それが定年後早くも12年が経って75才が近づき、おどろいてしまいます。ある夜遅くテレビをつけると、能「邯鄲」が演じられていました。学問をめざした盧生が一炊を待つ間に夢にみた生の短かさ、はかなさに驚くのです。その茫然の姿に心打たれました。

大学時代の始めの2年間、おおきな自治学寮に一同の仲間がクラブとして寄宿していました。その仲間と50余年ぶりのつきあいを再開しました。全国各地からの比較的に貧しい文科、理科さまざまな個性が混じっていました。大人になり始める頃のこと、それが、それぞれの道に散っていたのでした。盧生の一炊の夢のように、幾通りもの人生の過ごし方を、逢って聴くことができます。そしてあらためて、世の中のために、小さくともこれから自分にできることはなんだろうかと自問します。



理事 平林 久

また、高校時代の同期のある友人とこれまた50余年ぶりに親しく話せる機会ができました。彼は大学病院に勤める甲状腺外科が専門の医師でした。1986年のチェルノブイリ原発事故に際しては、被害の深刻だったベラルーシに何度も出かけて調査、医療活動したそうです。そして1996年には職を辞して退職金を使い切って単身での5年半のボランティア活動のためにベラルーシに身を投じたのです。放射性的ヨウ素がおよぼす甲状腺被爆にたいして、現地でのさまざまな劣悪条件下でできることを地道に続けたのです。まったく畏敬すべき友です。医療という仕事は人の苦しみに真っすぐ向かっているなと思い知らされ、圧倒されます。

彼とは上田高校の同期で、通学の3年間を同じ列車に乗っていたのです。聞けば同じ7人兄弟の末っ子だったのです。同じ鉄道を共有したからこそ、その後の進路と人生の大きな違いを象徴的に感じるのです。

科学は人の心をよるこばす大切なものといわれます。彼は今、長野県の松本市長として魅力的な街づくりを進めています。そして宇宙を軸とした科学の潤いに満ちた科学館をたちあげようとしています。心から応援したいと思っています。

最近、友人を次々と亡くしています。あのころの時間が消失し、先の時間も迫っているのを感じます。

私の心象風景の一端でした。

各地 の「宇宙の学校」を訪れて

-指導者セミナーのアンケートから-

副会長 稲葉 茂

昨年、全国の56か所で「宇宙の学校」が実施されました。そのうち、私は、新規開校や開校して日が浅いところを中心に10か所近くの学校にお邪魔する機会をいただきました。

多様な主催者も想いは同じ

主催者の方々は、教員OB、地域の有志、学校PTA関係者、教育委員会など様々でした。しかし、どの学校でも「子どもを見守り、子どもを支える」大人の姿の素晴らしさを感じることができました。まさに学校中心の「教える教育」から「みんなで共に育む共育」が実践されていることを感じました。

宇宙の学校で大事にしていること

「宇宙の学校」では、大事にしていることが二つあります。一つ目は、「家族の絆を深めること」です。それを具現化するために「家庭学習」を用意し、保護者が先生となる仕組みを用意しています。二つ目は、身近な素材や題材をもとにスクーリングや家庭学習ができる工夫がされています。この大切な理念がどの開催地でも重視されているかといえ、正直、差が感じられました。

指導者セミナーで活動をサポート

長く続けているとマンネリ化を避けるために目を引くためのテーマ設定や参加者全員が失敗しないために説明が丁寧になりがちです。そのような弊害を防ぐために、宇宙教育指導者セミナーを開催し、理念の周知や再認識をお願いしています。指導者セミナーでは、「宇宙の学校」の理念・「安全管理と安全管理」・「スクーリングプログラム」などを通して子どもの学びに気付いてもらっています。昨年度のセミナー参加者からは、次のような感想をいただきました。

生活のすべてが「宇宙の学校」につながる事が分かった。

一方的に与えるのではなく、主体的に考えてもらう工夫が大切なことがわかりました。

是非、会員の皆様も近くで開催される「宇宙の学校」にお出かけください。



2018 宇宙の学校®開催地情報（予定）

今年も全国のたくさんの地域（会場）で開催しています。（■青色★は新規）家庭学習とスクーリングの継続した活動で、家族や地域の絆を深めていきます。お近くの会場の日程や開催模様は当会のホームページで確認できます。見学や開校などのご希望はお気軽に事務局へお問合せ下さい。



総会や懇談会で会員から寄せられたご意見について（抜粋）

【総会】 Q:質問 事:事務局 会:会員 事業報告について

Ⅰ「宇宙の学校」事業について

事:4校減少について、今後、分析が必要

Ⅱ企業CSR支援事業について

Q:増加が難しいのはなぜか?

事:広報が足りずまた飛び込みも難しく、理事に紹介をお願いをしているが、難しいのが現状、会員の方にもぜひ企業を紹介して欲しい。

会:企業が自分たちで実施し、表彰をもらったり企業宣伝にもなっている。宇宙関連企業に存在をアピールして行ったらどうか。

会:コネクションを利用する考えを変え、積極的な努力が必要。企業にとってもwinwinの関係をアピールしていくことが重要!

決算報告

Q:会員の減少、寄附金の減少に対する対策は?

会:宇宙に関して色々な宇宙ビジネスへの関心も増えているので、この追い風にのるべき

事業計画

Q:ホームページの改定のご具体案は?

事:活動が伝わるものにしていきたい

事務局より

懇談会では参加いただいたみなさまから貴重なご意見を多数いただき、アッという間に時間が過ぎていきました。参考にさせていただき、できることから努力してまいります。残念ながら参加できなかった皆様、ぜひご意見、ご提案などをお寄せ下さい。会員の皆様に支えられ10年目を迎えることができました。今年は節目の年、「おとなの宇宙の学校」の開催など、会員間の交流や参画いただける機会を増やしてまいります。これからも皆様とともに子どもたちの明るい未来のため活動してまいります。